

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 69 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 69 回 : 2016 年 7 月 25 日 (月) 13:30~17:00

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 第 4 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 佐藤, 岡野, 石田, 岩谷, 菅原, 小谷, 日高, 黒岩,
織田 (谷口代理), 小森 (12 名)

(常時参加者) 友澤, 福井, 大滝, 池田, 島崎 (5 名)

(委員候補) 喜多, 橋本 (常時参加者候補) 鎌田

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-69-1 第 68 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-69-2 人事について

P4SC-69-3-1 L1PRA 標準誤記チェックの正誤表 (案)

P4SC-69-3-2 L1PRA 標準改定案 (抜粋版)

P4SC-69-4-1 停止時 PRA 標準改定に係るコメントへの対応

P4SC-69-4-2 停止時 PRA 標準改定に係るクロスチェックのコメント対応表

P4SC-69-5-1 停止時 PRA 標準読み合わせ方針

P4SC-69-5-2 停止時 PRA 標準改定案

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 12 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 68 回議事録の確認

資料 P4SC-69-1 を用いて第 68 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いただくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-69-2 により, 委員・常時参加者の異動に関する報告・審議を行った。

報告：岡野委員の所属変更，鎌田委員及び上村委員の退任，錦見常時参加者の登録解除。

審議：橋本（電力中央研究所），喜多（東京電力ホールディングス）両氏の委員就任につき審議され了承された。鎌田氏（原子力安全推進協会）の常時参加者登録が了承された。審議の後，主査・副主査の指名により橋本委員が幹事となった。

(4) L1PRA 標準の誤記チェックについて

資料 P4SC-69-3-1, P4SC-69-3-2 を用いて，L1PRA 標準に対する誤記チェックについて報告があった。

コメント No. 50 に関して，対象文中の熱水力解析・解析結果・実験結果の関係性につき議論があり，次回改定に向け議論の趣旨を備考に注記しておく。

コメント No. 40 に関して，「それらに関連する故障モード」がどこにかかるかで意味合いが変わるため確認する。

(5) 停止時 PRA 標準改定に係るコメント対応結果について

資料 P4SC-69-4-1, P4SC-69-4-2 を用いて，停止時 PRA 標準改定に係るコメントのうち，対応案を提示中況のコメントについて説明があった。

参考文献を分割して記載し直した結果確認をクロスチェックしておくこと。なお，今回改定で引用としたところに該当する旧参照文献は削除しており，合わせて確認する。

(6) 停止時 PRA 標準改定案の読み合わせ

資料 P4SC-69-5-1 により，改定案読み合わせの進め方について確認した。進め方に基づき，資料 P4SC-69-5-2 により箇条 1 から箇条 6 までの読み合わせを行ない，以下の議論があった。

3 用語の定義

3.1 オミSSIONエラー，3.2 コミSSIONエラー，3.3 設備構成 に関して，用語の使用状況を確認の上，必要な表現の修正を検討する。

4 停止時レベル 1PRA の実施手順

4.1 の文章末尾で「・・・実施する，もしくは実施する手順を変更してもよい。」は，何れも「してもよい」にかかるので，表現を検討する。

4.2 の AESJ-SC-P008 の引用表現を調整する。

4.3 の引用の順序を他の標準も参考に調整する。合わせて図 1，箇条 15 の表現も調整する。

図 1 における図中の用語・表現に関する議論に従い修正する。

6 プラント状態(POS)の分類

標準全体として、附属書・解説の参照における書式は、基本的には(附属書〇〇 参照)とする。

6.3 及び表2において「一次系」の表記は「原子炉冷却材系」の方が適切とも考えられるため確認する。

表2で「相違する」との表現は「異なる」の方が適切と考えられるため修正する。表2で「設備の復旧に供することのできる時間余裕」との記載があるが、当該部以外は「燃料露出までの時間余裕」としているため、この記載でよいか確認する。

6.5 の文末は、「同一の成功基準又は時間余裕をとることができる時間枠」及び「いくつか」を削除し、「変化による影響を分析し、タイムウィンドウを設定する。」に修正する。

(7) スケジュール, その他

標準の英訳に関する部会関係の検討状況について報告があり、レベル PRA 標準などが候補になる可能性があることが紹介された。また、今後の標準のあり方として、性能規定化の議論が進められていることが紹介された。

ASME/ANS と原子力学会との連携を図る組織として新たに JIWG が設立され、分科会からの代表参加者として、桐本副主査と橋本幹事があたることとなった。合わせて部会関係の PRA 活用検討タスクにも参加する。

8 月開催予定のリスク専門部会への報告として、誤記チェック関連と停止時 PRA 標準の中間報告を予定していることが紹介され、報告資料についてはメール審議にて確認していくこととなった。また、今年度の講習会を計画していく予定であることが紹介された。

次回分科会は9月1日 PM の予定。

以上